

横浜にぎわい座 平成 28 年度指定管理業務評価（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
I 文化事業①	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「横浜にぎわい寄席」への名称変更、きめ細かな料金設定の見直し、ネットによるチケット予約が終日可能になる等により、入場者数の増加、観客層の拡大に繋がったことは大変評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄席と並んでもう一つの柱である「名作落語の夕べ」の入場者数が平均105人というのは残念である。観客動員において、次の二つの課題が上げられるのではないかと。 一つは公演の時間帯で、土曜夜は演劇・音楽などの分野でも動員に大変苦勞している。 二つ目には最近の観客動向の変化があり、誰そのファンで、その人の落語を聴きたいと思っている人が多くなり、演者が複数の場合には、逆に敬遠される傾向にあると言われている。 そこで興味を引くような企画内容が必要で、例えば親子の話、廓の話、怪談咄、夢の話等々、多様なテーマ設定が可能と思われる。 そして演者個々の人気の動向に関する情報もリサーチする時代になっているのではないかと。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な公演を適切に実施し、チケット販売の工夫とあいまって、多くの入場者を迎え、収益も上がっている点、高く評価できる。 特に課題となっていた有名会を大胆にリニューアルしたことも効果があったと判断できる。 また、独創的な企画等の取り組みにも積極的に挑戦している点、好感が持てる。 若手の育成も成果が出てきていると思われる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方、市民の活動支援については、やや苦戦の結果と見受けられる。 鑑賞者拡大は、価値観の多様化する今日難しい課題であろうが、ぜひ戦略的な取り組みを検討されたい。 また、アウトリーチは今後にぎわい座のような文化施設を公的に支援する上で重要な要素になると考えられる。引き続き努力されたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三期の目標である大衆芸能次世代への継承、及び愛着や活性化への働きかけを基軸に、28年度も市民ニーズに応えるべく、多彩な構成による魅力ある大衆芸能の提供に努め、事業収支の改善やプロデュ-サ-の配置等、事業運営面における強化を図り、目標に着実に取り組んでいます。 具体的には、「横浜にぎわい座」への名称変更や、料金体系のきめ細かい見直し、各種広報の工夫による集客増（見どころや楽しさのアピール）や、旅行企画等異分野との連携、「にぎわい座」ならではの垣根を越えた寄席形式によるオリジナルスタイルの公演、市民や子供の学習や関心の喚起にかかるプログラム推進など、継承と創造による大衆芸能の魅力の醸成が際立っています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「名作落語の夕べ」については入場者数、前年比増の改善が認められるものの、引き続き集客面での更なる努力を期待します。 市民サポーター制度については、コンテンツやシステム確立への期待とともに、制度整備には、関心ある市民の参画が大切だと思います。市民の視点や要望の反映に努めるなど、柔軟にアプローチに取り組んでおり、今後も大衆芸能の専門性や奥深さを尊重しつつ、本質的な協働により「にぎわい座」を継続的に支える工夫が求められます。 従来のボランティア育成から一歩進んだ「にぎわい座」スタイル、～市民とともにつくるにぎわい座～の実現が待たれます。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 経常公演事業で公演数、入場者数ともに目標を上回って推移している点。 (2) 創造・挑戦的な取組である、「のげシャ-レ公演」を着実に実施している点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> (4) 市民サポーターによるモニタリング回数が目標値を下回っている点、確実に実施することが求められます。 (5) (6) 大衆芸能に関する学習活動やアウトリーチ活動については、相手先との関係からか、目標未達の項目が多いため、内容を精査したうえで、具体的な目標を再検討するとよいでしょう。
I 文化事業②	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報提供のための記録等の努力は、地味であるが、非常に重要であり、きちんと記録がなされていることを高く評価したい。この記録は、いずれ将来の価値創造にもつながると思われるため、引き続き努力されたい。 また、広報についてもさまざまな努力がなされており、評価できる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報は、近年媒体が多様化、変化の速度も速く、成果を見極めつつ、ターゲットを絞った情報提供が必要かと思われる。 また、都市戦略、他施設との連携には、劇場スタッフのみで対応できない可能性が高いと思われるため、市民との協同がぜひとも必要であろう。引き続き市民サポーターの育成に努力されたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシの改訂、SNS活用など新たな取り組みから、「にぎわい座」の浸透を図る努力が顕著であり、評価出来ます。 公演情報のア-カ-イブ化と公開に向けた検討については、大衆芸能の文化的資産として、進捗課題の整理を図り、今後の方向性を模索し、実現にむけていくことが求められます。 周辺地域との連携協力や、異分野とのコラボレーションは、街の賑わいづくりへの寄与と同時に「にぎわい座」の存在感を高め、地域との双方向性が大衆芸能への関心や集客へもつながり、すぐれて成果を見せています。 さらに市民と大衆芸能を繋ぐ観点からは、アウトリーチ、研修、コラボ事業など多様なアプローチがなされています。 「横浜音祭り2016」への参加他、都市戦略との連携においても、積極的かつ多様な連携がなされており、修学旅行やツアーの企画商品化などターゲットにも広がりをもった取り組みがなされています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民サポーター」の組み込みは、継続性ある取組として、大衆芸能への愛着や「にぎわい座」支援、芸能の新たなステージ拡大など、(大衆芸能の専門性や奥深さを尊重しつつ、にぎわい座にふさわしい協働の在り方を実現していく)さまざまな波及効果が期待され、実現にむけての検討が急がれます。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. ①情報収集及び提供においては、職員自らの創意工夫が反映された取組が実施されており、利用者にとっても有用性が高まっている点。SNS などの媒体での情報発信についても、積極的に実施し、新たな顧客獲得の努力が見られる点。 4. 市民と大衆芸能をつなぐ取組として、新たに「落語と保育」のテーマで幼稚園教諭対象に事業実施し、積極性が感じられる点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. ①記録公開については、徒に検討継続するのではなく、ガイドラインを整備し、公開できるものから先行して公開するような積極性があるとよいと思われます。

横浜にぎわい座 平成 28 年度指定管理業務評価（外部評価）

	上杉委員	垣内委員	西田委員	藤崎委員
Ⅱ 施設運営	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小ホール、練習室及び制作室の貸施設は 17:30 以降 22:00 までの夜間利用が可能であり、公的施設では稀なことと思われる。したがって、夜間利用を促進するPRの余地があると思われる。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織、個人情報保護等には特段の問題もなく、高い水準で運営がなされている。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の利用率、利用料金ともに目標に達せず、また前年に比べ減少したことは憂慮される。 場所的な利便性とキャバの使いやすさを考えると潜在的な市場もあるのではないだろうか。 現時点での利用率の伸び悩みに対して、ターゲット、個別施設の状況を今一度精査し、戦略を練ってほしい。 現場だから気づく点も多いと思われるので、現場の知見に期待したい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総体的に適切に施設の提供がなされています。貸館利用促進にむけて、ウェブによる空き情報案内等きめ細かい情報提供にも努めています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸館利用については、多様な利用者のニーズにむけて、検証も含め、時空間のきめ細かい対応や、ホール、シャール、練習室等、各施設の魅力や使い勝手の周知等、有機的かつ効果的な工夫が期待されます。 一階エントランス空間の活用デザインについては、魅力アップにつなげる更なる工夫や構想が必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <p>特になし。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. 利用率向上及び利用者サービスが高まる工夫については、未実施のものが多く、利用料金収入の減少につながっているように感じられますので、一層の奮起を期待します。 4. 販売システムの変更に対して、情報管理体制も従来の書類ベースのものからコンピューターベースのもの見直すとともに、職員スタッフ全員に情報セキュリティ研修を十分実施することが望まれます。
Ⅲ 維持管理	<p>【評価できる点】</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 比較的築浅の施設であっても、長期的な視点からこまめに修繕することで経年劣化を遅らせることもできると考えられる。現在の小破修繕や、保全管理が十分行われている。 特に高齢者の多い観客に対してしっかりしたケアがなされており、事故がないことも評価できる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス介助士などの資格は更新してほしい。忙しい業務の合間で取得するには制約もあると思うが、こういった公的資格はセイフティネットのようなものと思われるため、何とか時間を捻出していただくことを期待する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定的な保守管理がおこなわれています。また経年変化に対応する修繕、災害発生に備えた訓練やマニュアル改訂など常に見直しを持った管理が着実にこなわれています。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不測の事態に備えた、にぎわい座の取るべき対応等を、引き続き周辺地域とも認識、共有しておきたい。 	<p>【評価できる点】</p> <p>特になし。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. サービス介助士資格取得者在籍数の目標が資格失効により未達であるため、確実に講座を受講できる体制を整備することが望まれます。
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 決算で自主事業収入と事業費支出との差額が約860万円の黒字となり、その営業努力を大いに評価したい。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収支の改善は、昨今の経済状況の中、公演事業の適切な実施という施設の努力によるものであり、高く評価できる。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し館収入の改善が最優先で考えられる必要がある。エビデンスに基づく戦略をぜひ検討されたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 28年度も改善に本腰を入れて取り組んでおり、分析にもとづいたきめ細かい努力が確実に成果につながっており、事業収入の回復をみえています。 クオリティ高い公演を持続的に提供していくためには、健全でバランスの良い、安定した収支構造の確立が大切であり、引き続き収支コンディションの維持向上を期待しています。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収入が増加傾向にある点。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入が前年比約 20%減になっているため、早急に対策を講じることが望まれます。 事務費が近年増加傾向にあるため、内容を精査されると良いでしょう。
その他	<p>(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)</p>	<p>(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収支の改善は高く評価できる。確かに貸し館に関してまだのびしろがあるように思われるが、今後の具体的な戦略を期待したい。 あわせて、市民をサポーターとして取り込む方策も引き続き検討されたい。市民を巻き込むことが貸し館利用率を上げることにもつながる可能性もある。個別に対応するのではなく、すべての活動のシナジー効果を狙ってほしい。 	<p>(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> にぎわい座の魅力のひとつとして、館総力をあげてのホスピタリティが素晴らしく、ソフト面において、心地よく鑑賞が楽しめる環境づくりが、たゆまずなされていることを高く評価します。 	<p>(Ⅰ～Ⅳ以外で何かお気づきの点があれば御記載ください)</p> <ul style="list-style-type: none"> チケット種類の細分化や新しいチケット販売システム導入により入場客数が増加していると思われます。今後は客単価(事業収入/客数)の動向および事業利益率(事業利益/事業収益)を意識した販売計画を立案・実施されることを望みます

総括	<p>「横浜にぎわい寄席」への名称変更、料金設定の見直し、リニューアルの新聞 3 紙への掲載等の取組が入場者数の増加、観客層の拡大に繋がり、決算で自主事業収入と事業費支出との差額が約 8 6 0 万円の黒字となって、今後一層の拡大を期待させる成果があり、営業努力の賜物と大いに評価する。</p>	<p>中核となる公演事業、人材育成、記録といった活動はしっかりなされており、成果も上がっていると思われる。</p> <p>一方で、貸し館までは手が回らなかったように見受けられ、市民との協同も含め周辺活動の強化が必要と思われるが、限定されたスタッフが運営する以上トレードオフを考慮せざるを得ないであろうから、この部分については市民や関連団体との連携を柔軟に受け入れることで、中核活動のレベルを下げないような工夫が必要では？</p>	<p>これまでの実績を踏まえ、事業、運営、管理各部門における、一段の体系化を図り、地域や異分野との連携にも積極的に取り組む多角的な経営姿勢を以て、大衆芸能の魅力の継承、愛着や活性化への働きかけが着実に成果をみせています。</p> <p>市民ニーズに応えるべく、多彩な構成による大衆芸能の魅力の向上と伝承につとめ、流派や所属団体の垣根を越える演目上演など、「にぎわい座」らしさ、「にぎわい座」ならではの確立しており、今後も市民にとって愛着ある大切な文化資産として、豊かな大衆芸能の提供とそのための創造性を持った事業経営を市民とともに（にぎわい座にふさわしい協働の在り方）維持発展していただきたいと思います。</p>	<p>今年度は第 3 期指定管理期間の初年度にあたることから、新たな取り組みが多数あった一方で、事前に立案した諸提案について未実施もしくは目標未達のものはいくつか見受けられました。</p> <p>また、当初計画にはなかった試みをいくつも実施するなどの積極性も見いだせました。</p> <p>来年度に向けて、今年度大きく落ち込んだ利用料金収入の増加に向けた対策を検討されることを期待します。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標①		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。 (1) 幅広い大衆芸能の演目の多彩な構成による魅力的な公演等を企画・実施します。 (市民ニーズに応え、常時魅力あるプログラムの提供)	1	【経常公演事業】 ①毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催	□年間公演数	200公演以上	222公演	テマツ A 芸能ホールでは222公演開催。小ホール(のげシャール)公演を合わせると年間259公演開催。	【成果】 ・寄席形式公演「有名会」を「横浜にぎわい寄席」に名称変更し、入場料金改訂やこども料金等の設定を行いました。リニューアルや落語に初めて触れるには最適な公演であることを積極的にアピールし、旅行企画や区民優待デー等とのタイアップを進めた結果、チケット販売枚数が昨年度比42%増、収入も11%増となりました。	【評価できる点】 ・課題とされていた寄席形式公演の名称変更、料金体系の整理や広報キャンペーン等の取組みにより、目標を上回る集客を達成しました。子ども・学生・シニア料金等の設定と、インターネットを活用したチケット販売システムの導入により、気軽にチケットを購入しやすくなっただけでなく、購入実績から入場者層の傾向が捉えられるようになりました。
	2	②所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□合計入場者数(月平均)	3,170人以上	3,750人	A 芸能ホール公演の入場者は平均3,750人、にぎわい寄席、正月、二月興行が好調。小ホールを合わせた平均入場者数は4,053人。	・その他の公演も、所属団体の垣根を越えた「東京四派若手精鋭そらい踏みの会」や「上方落語会」「寿ぎ唄い舞う“万歳”から笑いの芸“漫才”への移り変わり」など、にぎわい座らしい多彩な出演者や組み合わせで開催しました。	・企画公演については、バラエティに富んだ内容で多くの公演が行われ、集客面含め、多様な層に向けた大衆芸能の魅力伝えていきます。
	3	「横浜にぎわい寄席(毎月1-7日)」:落語芸術協会と落語協会に所属する芸人が同じ日に出演する、「横浜にぎわい座オリジナルスタイル」の寄席形式の公演を実施し、安定した集客を確保	■「横浜にぎわい寄席」リニューアルキャンペーン等の実施	実施	実施	—	中区制90周年プレYearを記念した中区民優待デー実施(11月)	
	4		□有料入場者数(一公演あたり平均)	90人以上	105人	A 分かりやすい名称への変更、料金改定や旅行企画タイアップ効果により、集客、入場料収入ともに改善。		
	5	「名作落語のタベ(毎月1回)」:毎回両協会の真打4人が古典落語をじっくり聞かせ落語通を満足させる公演の実施	□年間公演数	12公演	12公演	B 有料入場者数は平均105人で前年比36%増と改善。		
	6	「企画公演(毎月8回程度)」:落語、漫才、コント、講談、浪曲、奇術、喜劇などバラエティ豊かな内容の公演を日替わりで開催	■横浜芸術アクション事業(音楽)に合わせた、大衆芸能分野の音楽公演を開催	開催	開催	—	横浜音祭り2016連携事業として「横浜にぎわい寄席」「高橋キヨ子 民謡のこころ」など7タイトルで参加。うち「日野美歌」「万歳から漫才」2公演は実行委員会補助事業(共催)として開催。	【課題】 ・寄席形式公演と独演会が中心となっていますが、専門文化施設として10月に開催した「寿ぎ唄い舞う“万歳”から笑いの芸“漫才”への移り変わり」のような演芸の歴史的な変遷や文化史的な意味を伝える企画性の高い公演を、今後は増やしていく必要があります。
	7	「開館15年記念事業(H29年度予定)」:経常公演より華やかで祝祭感のある公演、来館経験のない方にも足を運んでもらえるような話題性のある事業を都心部専門文化施設と連携して実施	■開館15周年記念事業を、平成29年4月または5月に実施予定	企画検討	企画検討	—	平成29年4月から6月の主催公演を「開場15周年記念事業」として開催準備。平成29年2月から前売開始、来場者サービスを企画。	
(2) 創造的で発信性のある取組を実施します。	8	①創造・挑戦的な取り組み ・にぎわい座から生まれる作品の増加(ネタおろし・新作発表等)	■演芸の歴史的な変遷を紹介する新しい企画公演を開催	開催	開催	—	「寿ぎ唄い舞う“万歳”から笑いの芸“漫才”への移り変わり」(10/10)	【評価できる点】 ・実演により大衆芸能の変遷を探る独自企画の公演等、公的な施設で大衆演芸を扱うことの意味を感じさせました。
	9		■講談と落語のコラボレーションなど、にぎわい座オリジナル公演を開催	開催	開催	—	「爆笑演芸会」(2/14)で、浪曲入りコントに「暇の母」を入れたオリジナル作品。	・大衆芸能の切り口から横浜音まつりと連携したプログラムを企画する等、積極的な連携を図りました。
	10	・出演者の新たな挑戦を長いスパンで体感(人気公演シリーズ化) のげシャール公演(年間10公演)	□年間公演数	10公演以上	14公演	A 「だるま食堂」「ダメじゃん小出」ほか、横浜音祭り2016参加「日野美歌」公演を含む。	・初めて黄金町バザールに参加し、高架下「かいだん広場」の個性的な空間を活かして、演芸会を開催し、アウトリーチの幅を広げました。	・黄金町バザール(アート)との連携事業等、別ジャンルとのコラボレーションが、野毛地域周辺の雑多な空気感と親和性のある形で実現し、施設の魅力向上、新たな来館者の誘引に繋がりました。
	11		□入場者平均	100人以上	100人	B		【課題】 ・映像によるプロモーションは2件に留まりました。学生や若者層への訴求力を鑑み、来年度は更に活用していく必要があります。
	12	・近隣文化施設との連携による新しい舞台作品の創造	□個性的なロケーションでの落語会の実施回数	1回以上	1回	B 黄金町バザール・かいだん広場「黄金町出前演芸会」(10/30)		【改善が必要と考えられる点】 ・今年度の優れた取組が一過性のものとならないよう、実績の評価と今後の継続に向けた検証と改善を行う必要があります。
	13		□大衆芸能とジャズのコラボレーション公演の実施回数	1回以上	1回	B 横浜音祭り2016参加「日野美歌」公演(10/22)		
14		■YAFチャンネルと協働して、公演プロモーションやアーカイブ化を実施	実施	実施	—	「ダメじゃん小出」(9/24)、「だるま食堂単独ライブ」(12/23、24)はプロモーション映像をホームページで公開。YAFチャンネルとの協働は今後の検討継続。		
(3) 若手実演家育成の仕組みを作り実践します。	15	①主として小ホールを活用した若手育成 ※のげシャールで芸を磨き、芸能ホールへステップアップ」というコンセプトの明確化	□年間公演数	20回以上	21回	B	【成果】 ・公演や集客については計画通りに遂行しました。人気芸人による公演で幅広い落語ファンを獲得するとともに、実力派演者による多彩な独演会の実施により、にぎわい座を支える落語ファンのニーズにも応えました。	【評価できる点】 ・小ホールから芸能ホールへ繋がる若手育成の仕組みが確立しており、今年度も各種公演を通じ継続的な実践が行われました。
	16	「登竜門シリーズ in のげシャール」:若手芸人研鑽の場として小ホール(のげシャール)のシリーズ公演を実施	□平均入場者数	100人以上	104人	B		・若手演者を中心にアウトリーチに起用し、活動の場を広げています。
	17	・アウトリーチでの若手の起用	□アウトリーチ事業への起用回数	5回以上	7回	A 立川はるを「ディ銭湯」起用。その他に登竜門シリーズ以外の若手芸人6人を起用。	・アウトリーチには若手を積極的に起用しました	【改善が必要と考えられる点】 ・特になし
18		□経常公演での起用回数	5回以上	10回	A 三遊亭玉楽、三遊亭萬橘、桂三木男ほか。			
(4) 鑑賞者の拡大を図る取組を実施し、事業を支える仕組みを構築します。	19	①市民ニーズ把握の取組 ・全公演でのアンケート実施	□アンケートの実施回数	全公演実施	全公演実施	—	アンケート回収総数2,872枚。全職員回覧。	【評価できる点】 ・第3期指定管理者選定時の新規提案事業である「大人のための寄席体験『落語のトビラ』」により、新たな来館者、鑑賞者を得る機会となりました。
	20	・市民サポーター制度を活用したモニタリング結果を企画に反映	□市民サポーター等による公演モニタリング実施回数	4回以上	2回実施	C 市内大学生による公演モニター実施。		
	21	②鑑賞のすそ野の拡大・公演入場者数の拡大	□開催数	2回以上	2回実施	B 大人のための寄席体験「落語のトビラ」10/29、3/18		【改善が必要と考えられる点】 ・鑑賞者の裾野拡大に関する事業については、実施によってどのように期待する効果につながっているかを検証しながら進めていく必要があります。
	22	「大人のための寄席体験&交流プログラム」:新たな観客創造を目的に、寄席の楽しみ方の紹介や出演者との交流の場を提供	□合計参加者数	160人以上 (うち初来館者60%以上)	117名 (うち初来館者97%)	C 終演後の交流会会場の都合から定員を80名に変更。初来館者または初心者はチケット券種で集計。		
	23		□貸切公演開催回数	6回以上	6回	B 企業、法人会、学校など。		
	24		□貸館主催者の満足度	4以上	4.36	B 5段階評定		

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価						
I 文化事業目標①	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価					
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。 (5) 市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動を支援します。	①市民の創造性や感性を育み、特定のファンに限らず幅広い層がにぎわい座を知ることによる将来の観客創造 ②大衆芸能を中心にしつつ、ジャンルを広げた企画 ③毎回重点テーマ(訪問先)を決めたアウトリーチの実施 「ワークショップ、講座」: 寄席にちなんだワークショップ、野毛周辺で盛んなジャズを知る講座、横浜トリエンナーレ及び横浜芸術アクション事業に合わせた音楽・美術・舞踊のジャンルで大衆芸能と親和性を持たせたワークショップなどの開催 「アウトリーチ」: 将来の観客作り、にぎわい座のPR、上演の可能性拡大、多くの方に大衆芸能の楽しさを伝えること等を目指した、施設外での取組	□「寄席文化体験」講座開催数	年2回	1講座2回	B	寄席文字体験(8/16)2回開催。	【成果】 ・アウトリーチの回数が増え、それぞれのアウトリーチ先の期待に応えられる若手芸人を多数起用することができました。 ・バックステージツアーを数多く開催し、にぎわい座の魅力を公演とは別の視点から紹介しました。 【課題】 ・アウトリーチ事業の推進に市民サポーターの力が活きることを理解しつつも、その実現には至っていません。	【評価できる点】 ・講座、ワークショップ、バックステージツアー、アウトリーチ等のさまざまな取組みの中で、市民が大衆芸能やそれを扱うにぎわい座についての興味・関心につなげる機会を積極的に生み出しています。 【改善が必要と考えられる点】 ・大衆芸能に関する多様な関心を喚起するような取組を期待します。 ・市民サポーターの立ち上げに向けた与条件の整理を行い、ボランティア育成のしくみと、効果的な協働メニューを検討し、具体的な取組につなげていくことを期待します。				
		□同 合計受講者数	50人以上	36人	C	定員40人、当日欠席ありで36人。						
		□「ジャズ講座」を機会にした初来館者数	20人以上	未実施	C	横濱ジャズブロード実行委員会の都合により中止。						
		□「野毛まちなかキャンパス」講座の共催開催数	2回以上	2回	B	にぎわい座寄附講座「横浜にぎわい座を知る」(12/5)、「寄席の楽しみ方」(12/19)						
		□同 会場提供数	3回以上	4回	A	10/31、12/12、1/23、1/31						
		□同 職員の講師派遣人数	2人以上	2人	B	チーフプロデューサー、事業担当リーダー						
		□「バックステージツアー」開催回数(子ども向け、一般向け、団体向けオンデマンド開催)	子ども向け1回以上 一般向け2回以上	子ども向け1回 一般向け 未実施 団体向け13回	A	子ども向けは「夏のこども寄席」に合わせて開催。街コンなどでも実施。						
		□障がい者施設での実施数	3回以上	2回	C	アウトリーチ先の都合で1回分がキャンセルとなる。						
		□若手育成事業の芸人起用数	5回以上	7回	A	ニッ目を積極的に起用。立川こはる(登竜門シリーズ出演中)、柳家わさび、桂夏丸ほか全7人を7回起用。						
		□アウトリーチ先の新規開拓施設数	2施設以上	1施設	C	かいだん広場(黄金町高架下)。南区で調査実施。						
		■市民サポーター共同のモデル事業としての実施	実施	未実施	-	市民サポーターのあり方検討中。						
		(6) 子どもの創造性育成の取組を行います。	①大衆芸能の楽しさと伝統を伝え、日本の文化への理解を深め、子どもの創造性や感性を育む 「寄席体験プログラム」: 小学生向けに寄席体験の機会を提供 「学校プログラム」: 市立小学校等でのアウトリーチ事業の実施により子どもたちに触れ合いと体験の場を提供 ※教員向け講座の開催 (追加事業)	□参加児童数	1800人以上	1,627人			B	予定通り実施したが、在籍児童数により人数減。	【成果】 ・例年の芸術文化教育プラットフォームに加え、教育委員会との協働事業を2校実施し、学校ニーズにあったプログラムを実施することができました。 【課題】 ・落語を教育に活用するニーズが高まっています。事業計画外であっても必要性の高いアウトリーチは実行できるような推進力や外部の協力(市民協働)が必要です。	【評価できる点】 ・これまで継続して行っている、「寄席体験プログラム」や「学校プログラム」を着実に進めたほか、教育委員会のキャリア教育プログラムへの参加等、計画外の事業にも積極的に取り組み、将来へ繋がる若い世代に対して、落語演芸の魅力を伝える機会づくりを行っています。 【改善が必要と考えられる点】 ・「寄席体験プログラム」の対象エリアを、より広範囲な区に広げる等、多くの生徒児童が参加できるようにすることが期待されます。
				■事業の実施効果を高めるための教員向け講座の事前開催	開催	開催			-	本町小学校教員対象に実施。		
				□コーディネーター校数	3校以上	4校			A	芸術文化教育プラットフォーム参加。		
				■事業の実施効果を高めるための教員向け講座の事前開催	開催	未実施			-	対象4校では未実施。		
教育委員会と連携し、「はまっこ未来カンパニープロジェクト」に参加。	-			2校	A	山内小学校(青葉区)、老松中学校(西区)の2校の依頼で、落語家による落語指導、職業講話、イベント実施授業などを実施。三遊亭わん丈、桂歌助。						

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
2 大衆芸能に関する情報の収集及び提供を行います。	①情報収集及び提供 ・公演情報の集積(他施設情報の収集、配架の工夫)	■より分かりやすく手に取りやすい配架方法への変更 ■自主公演チラシラックへの「スタッフのお勧めコメント」を付け親しみやすさを付加	実施	実施	—	チラシラックを更新。売場情報など施設からのお知らせをエントランス専用スペースに集約。一部公演をポップ添付。	【成果】 ・チラシの改訂、SNSの活用などで演芸ファンだけでなく、幅広くにぎわい座の公演や大衆芸能の魅力アピールしました。	【評価できる点】 ・チラシの一部改訂等、広報・PR面での取り組みに着手しています。	
	②記録(自主事業の映像記録、電子大福帳) ※資料としての公開等、活用に向けた取り組みの実施	□電子大福帳への公演情報の入力数	年間220件以上	263件	A	全公演入力完了。貸切公演も入力。	・記者懇談会は、歌丸館長出席の効果が大きく、主要新聞の文化部記者の出席が実現し、開場15周年の記事掲載につながりました。	・黄金町関連でのアーティストのとコラボレーションによる館内装飾の実施等、1(2)での連携と関連した効果的な取り組みが行われています。	
	③情報提供、相談対応(大衆芸能公演の実現に向けた市民等からの相談照会への対応)	□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネーター件数	20件以上	23件	A	地域イベントへの出演者紹介、職員研修の企画コーディネートなど。	・「文豪ストレイドックス」スタンブラリー中は、谷崎潤一郎と大衆芸能の関わりについてツイート。	【改善が必要と考えられる点】 ・広報面では、紙媒体等についてにぎわい座のブランド力を向上させるものや、大衆芸能になじみの無い層にも訴求できるようなデザイン等の工夫が必要と考えられます。	
	④広報、ホームページ ※訴求ターゲットを意識した公演チラシデザイン等の改訂	□WEB会員へのメールマガジン年間配信回数	10回以上	19回	A	5月に導入したチケット販売システムを使用して配信。	・「にぎわい寄席」横濱三三づくし、「落語のトビラ」ほかで実施。	・「間口を広げる」という面では、実施した公演や事業の「後パブ」を、紙媒体、WEB等を活用し効果的に仕掛ける手法も検討の余地があります。	
	⑤※ホームページのコンテンツ拡充等	□Twitter年間配信回数	400回以上	570回	A	開館日はほぼ毎日配信。	・中嶋修展、お笑いばっちり倶楽部写真展ほか。	・公演情報のアーカイブ化と公開に向けた検討について、与条件を整理しながら、実現可能な取り組みについて継続して検討を進める必要があります。	
	⑥展示・演出 ・常設展・企画展・協力展(通年)	□企画展の年間開催数	4回以上	4回	B	野毛大道芸ポスター展、黄金町バザール2016サテライト展示、干支の絵展、本町小学校児童作品展。	・エンタランスから2階にかけて展示案内を設置。展示パネルと展示ケースの組合せで立体的な展示を実施。	・「にぎわい寄席」横濱三三づくし、「落語のトビラ」ほかで実施。	
	⑦開館15周年特別展(H29年度)	□市民団体や近隣施設と連携した特別展の開催回数	2回以上	4回	A	エンタランスから2階にかけて展示案内を設置。展示パネルと展示ケースの組合せで立体的な展示を実施。	・中区制90周年プレYearを記念した中区区民優待デー実施(11月)	・3月7日開催。館長出席。	
	⑧照明や解説文などの工夫による展示の質向上、英語によるキャプション作成	■常設展の解説や展示方法を改訂し、展示の質を向上	実施	実施	—	中嶋修展、お笑いばっちり倶楽部写真展ほか。	・野毛大道芸ポスター展、黄金町バザール2016サテライト展示、干支の絵展、本町小学校児童作品展。	・エンタランスから2階にかけて展示案内を設置。展示パネルと展示ケースの組合せで立体的な展示を実施。	
	⑨・1階エントランスの演出、1・2階オープンスペース等での情報掲示	□季節の館内装飾展示替え回数	6回以上	13回	A	毎月実施、3月は2回実施。	1階エントランス、自動ドアに展示。	—	
	⑩・展示事業の案内を1階エントランスやホームページに掲載	□市内のアーティストと連携した館内装飾の実施回数	1回以上	1回	B	—	—	—	
	3 街のにぎわいづくりに寄与します。	①野毛地区との連携 ・「野毛地区街づくり会」や「野毛飲食業協同組合」と連携して、お互いのイベント広報活動に協力	■野毛地区飲食業協同組合の「野毛通手形」(飲み歩きクーポン)に参加	参加	参加	—	窓口での手形販売、手形掲示によるチケット優待、手形と寄席チケットのセット販売(実績8セット)。6/1~11/30。協議継続中。	【成果】 ・概ね計画通りに事業を実行しました。若い来街者も増えている野毛にあるというメリット、強みを活かした活動を行いました。	【評価できる点】 ・様々な方面から、地域や関連するイベントと連携協力し、施設と地域との組合せによる楽しみ方を積極的に提供しています。
		②野毛地区と互いの集客が好影響を与える点を重視した取組 ・公演鑑賞と野毛での飲食の楽しみを加え、お客様にも野毛の飲食店にも喜ばれる企画の実現	■大規模合コン「街コン」に参加し、若い新規来館者を獲得し、野毛への誘客も実現	実施	実施	—	4回開催、100人参加。	【課題】 ・野毛通手形販売期間(6か月間)以外も、野毛飲食とのタイアップを企画実施する必要があります。	【改善が必要と考えられる点】 ・未実施の項目については、実現可能な条件整理を行いながら進めてください。
		③「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施数	□「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施数	5公演以上	6公演	A	ちぐさJAZZコンサート、横浜バスマップサミットほか。	—	—
		④野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	実施	実施	—	野毛大道芸ポスター展の共催、広報協力。	—	—
		⑤MM21地区就業者の交流団体向けイベントを実施し野毛への誘客を実現(イベント実施3回以上)	■MM21地区就業者の交流団体向けイベントを実施し野毛への誘客を実現(イベント実施3回以上)	実施	実施	—	かもめスクール2回、MMccイベント1回。	—	—
	4 市民と大衆芸能をつなぐ取組を行います。	①市民と大衆芸能をつなぐ多様な取組み ・鑑賞や自演、学習・体験だけでなく、他のアプローチで大衆芸能の支援者、ファンを増やす取組の実施	□にぎわいスタッフの声を活かすための改善提案アンケート実施数	2回以上	3回	A	対象者、契約方法、手数料などを決定。運用は29年度から。	【成果】 ・幼稚園教諭向けの研修会の実施など、大衆芸能と市民を結び取組を実施しました。	【評価できる点】 ・相手方の要望に柔軟に対応し、市民と大衆芸能を繋ぐ機会を積極的に設けています。
		②サポーター等との協働 ・にぎわいスタッフ	■チケット販売促進プロジェクト開始	実施	制度整備	—	大学生による公演モニター2回実施。	【課題】 ・市民サポーターへの取組みは学生モニタリングのみで、進んでいません。	【改善が必要と考えられる点】 ・市民サポーターの導入について、条件整理を進め、実現に向けた検討を行う必要があります。
③市民サポーター ※生徒・学生等の実地体験等を積極的に受入れ		□アウトリーチ、鑑賞者開拓、広報活動等での活動実績数	5件以上	2件	C	職業体験(中川西中、六ツ川中、平楽中)	—	—	
④「にぎわい座」の職業体験、アートマネジメント実習		■学校や学生からの要望があれば積極的に受入れを実施	実施	実施	—	「落語と保育」をテーマに実施。講師：林家たけ平。	—	—	
⑤(追加事業)		・横浜市幼稚園協会に協力し、幼稚園教諭のための研修会を開催。	—	1回 150人参加	A	—	—	—	
5 都市戦略及び他施設と連携します。	①都市戦略との連携 ・横浜アーツフェスティバル、オリパラ関連事業等との連携	■横浜芸術アクション事業(音楽)開催年に合わせ、経営公演で音楽公演を開催	開催	開催	—	「寿ぎ唄い舞う」万歳」から笑いの芸「漫才」への移り変わり(10/10)、「日野美歌 ジャズとヨコハマを歌う」(10/22) 在日大使館関係者に依頼中(2か国)	【成果】 ・TPAM2017に加え、初めて「横浜ダンスコレクション2017」公演を小ホールで開催、コンテンツポラリーパフォーミングアーツ分野での小ホールの更なる活用につなげました。	【評価できる点】 ・横浜音祭り事業を始め、市の事業や芸術文化振興に繋がる関連事業に積極的に協力連携し、活動・発信の場を設けています。	
	②外国人による公演モニターを実施し、企画立案に向けた情報を収集	■横浜ジャズフロムナード会場運営チームに職員を派遣	実施	実施	—	1名派遣。	【改善が必要と考えられる点】 ・「横浜音祭り2016」に、にぎわい座らしいプログラムで参加しました。	【課題】 ・旅行企画の提案を行うマンパワーの確保が難しいのが現状です。	
	③TPAM参加カンパニー公演運営に協力	■TPAM参加カンパニー公演運営に協力	実施	実施	—	富士山アネット「エニアック」4日間8公演。	—	—	
	④横浜ダンスコレクション公演運営に協力	■横浜ダンスコレクション公演運営に協力	実施	実施	—	アイサ・ホクソン「HOST」3日間3公演。	—	—	
	⑤会議関係者に対するニーズ調査の実施	■会議関係者に対するニーズ調査の実施	実施	未実施	—	29年度から会議運営会社とのコンタクト開始。	—	—	
	⑥旅行企画商品化件数	□旅行企画商品化件数	3件以上	4件	A	相談を元に旅行・遠足を提案。京急観光、横浜遠足	—	—	
	⑦個人的なロケーションでの落語会の実施など近隣施設、市内文化施設との協働事業件数	□個人的なロケーションでの落語会の実施など近隣施設、市内文化施設との協働事業件数	2事業以上	3事業	B	「黄金町バザール2016サテライト展示」(10/1~11/8)「黄金町出前演芸会」(10/30)、横浜赤レンガ倉庫1号館(横浜ダンスコレクション2017)	—	—	
	⑧他施設等との連携 ・「財団内施設」若手支援・舞台芸術の振興「地域連携」「その他」などの場面・目的に応じた施設連携	□個人的なロケーションでの落語会の実施など近隣施設、市内文化施設との協働事業件数	2事業以上	3事業	B	「黄金町バザール2016サテライト展示」(10/1~11/8)「黄金町出前演芸会」(10/30)、横浜赤レンガ倉庫1号館(横浜ダンスコレクション2017)	—	—	

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価			
II 施設運営目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供を行います。	①各室場を、公演、練習、創作活動の場として積極的に貸出し、市民文化の振興に寄与。 ※大衆芸能での利用を優先し、空きがある場合はそれ以外のジャンルでの利用にも提供 ・施設の提供	①基本的な施設の提供 □開館日数・時間	341日(月2回 施設点検で休館)、10時～22時	341日(月2回 施設点検で休館)、10時～22時			【成果】 ・計画通り施設運営を実施しました。	【評価できる点】 ・適切に施設の提供が行われています。	
	②利用料金の改訂 →2に記載								
	③貸館の運営体制 ■管理担当職員1人を貸館メイン担当とし、舞台技術者とともに公演打合せや利用相談を担当 ■見学対応は全員で実施	■実施	■実施	■実施	■実施	ホールは管理職員1名が専任的に担当することで、ノウハウを蓄積。	【課題】 ・後段の利用率、利用料金の減少を考慮し、ホールセールスを意識した対応が必須です。	【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
	④要望・苦情への対応 →2に記載								
	・貸館の運営体制 ※貸館受付:常時2名以上在席(舞台技術者は常時1名対応可)								
2 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用に取り組みます。	・稼働率目標	□目標利用率	芸能ホール(日) 78% のげシャレ(日) 67% 練習室(時間帯) 66% 制作室(時間帯) 40%	76% 60% 58% 35%	B C C C		【成果】 撮影や経常公演中の貸出しなどは、直前の申し込みにも柔軟に対応することで利用実績が伸びています。	【評価できる点】 ・貸館空き情報のWEB案内、売店(野毛商店会)とタイアップした付加価値創造、経常公演期間中の空き時間利用促進ほか、利用促進に向けた様々な取組を行っています。	
	・利用率及び利用者サービスが高まる工夫	■土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNSで案内 □利用希望者施設見学受け入れ件数 □平日夜間の夜間見学会開催回数 □大学のダンスサークルへの練習室の宣伝活動実施団体数 □練習室、制作室の紹介ツール作成数	■実施 12件以上 2回以上 10団体以上 2種以上	■実施 23件 未実施 未実施 2種	— A C C	貸出抽選会後の土日祝日の空き情報をホームページで案内。	【課題】 ・上記取組が、課題とされてきた貸館利用率向上、利用者確保の具体的な成果には必ずしも繋がっていません。	【改善が必要と考えられる点】 ・上記取組が、課題とされてきた貸館利用率向上、利用者確保の具体的な成果には必ずしも繋がっていません。	
	・新規の利用者を増やすための工夫	□表方スタッフの配置サービス提供数	2件以上	要望なし	—	需要を呼び起こす宣材等を早急に制作。		・一つ一つの“しかけ”について、どのように成果に繋げるか、今年度の状況を検証し、H29年度以降の実践につなげていく必要があります。	
	・要望苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて副館長まで報告 ■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告	■実施	■実施	■実施	全て目を通し、改善可能なものは実行(トイレの温水洗浄化、掲示物の改訂など) 新聞の誤報道が1件あり。		・年次計画として目標設定した項目について、複数未達成のものがありません。設定した目標を随時確認しながら、利用促進の具体的な取組について、検討のみならず実践に繋げていく必要があります。	
	・グッズ販売	□オリジナルグッズの新商品発売数	1種類以上	1種類	B	チケットホルダー。		・表方スタッフ配置サービス等の新規の取組については周知方法とセットで実効性のある運用を検討してください。	
	・1階エントランスの演出、活用プラン	□地域イベントのインフォメーション実施回数	2回以上	3回	A	野毛大道芸、黄金町バザール、中区民優待デー			
	・売店事業者との連携	□のげ茶屋とのタイアップ回数	2回以上	2回	B	食事付読者プラン、大晦日カウントダウンのドリンク手配			
	・利用料金の割引等の取組み	■小ホールと制作室のセット割引を設定 ■附帯設備セット内容を変更	■実施 ■実施	■未実施 ■未実施	— —	29年度実施予定。 29年度実施予定。			
	3 組織的な施設運営を行います。	①適切な運営組織体制と人材の配置 ※館長1、副館長1、企画コーディネーター1、チームリーダー1、事業担当3(内1名はアシスタントプロデューサー)、管理担当3、アルバイト(事業・運営共通)2、公演表方チーフ1、にぎわいスタッフ最大30	■適切な人員の配置と運用 ※館長1、副館長1、CP1、TL1、担当L2(管理運営1、事業1)、職員4(管理2、事業2)アルバイト2(3人2ポスト)、公演表方チーフ1(2人1ポスト)、にぎわいスタッフ最大30 ■勤務体制はシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて出勤職員、人数を決定。	■実施	■実施	—	館長1、副館長1、CP1、管理運営TL1、担当L1(事業)、職員5(管理3、事業2)アルバイト2(2人1.5ポスト)、公演表方チーフ2、にぎわいスタッフ26	【成果】 ・大衆芸能分野の専門家をチーフプロデューサー(常勤職員)として採用し、効果的で効率的な公演の企画、職員の育成などを中期的に実施できる基盤が整いました。	【評価できる点】 ・チーフプロデューサーを内部人員として配置したことにより、公演や各種周辺プログラムにおける積極的な企画展開に繋がっています。
		②自主事業の企画体制							
		②主要人材の能力確保、研修実施、スタッフの育成・チームワーク醸成の取組み ※アシスタントプロデューサーの育成	■大衆芸能分野のプロデューサーを配置。 チーフプロデューサー、アシスタントプロデューサー(事業担当職員)各1人を配置し、中期的に ■市民サポーターや地域連携推進のため、職員がファシリテーターとしての役割を発揮 ■研修参加や資格取得を奨励 ■特定の課題、テーマについて全職員が意見を言える環境づくり	■実施 ■実施 ■実施	■実施 ■実施 ■実施	— — —	アシスタントプロデューサーは財団の専門人材研修を受講。チーフプロデューサーは講師として研修に参加。 相談対応、研修講師など。 人権啓発研修。 ポイントカード改訂、防災。	【課題】 ・施設としての若手職員の専門人材としての育成はOJTが中心で、体系化はなされていません。また公演の企画制作能力や専門知識だけでなく、販売促進やタイアップなどのセンスも求められています。	【改善が必要と考えられる点】 ・専門人材の育成は、ある程度長い視点でプランを立て、進めていく必要があります。
		③環境への配慮	■施設の利用状況を細目に確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減。 ■新たにゴミ処理有料化を開始し、ゴミの軽減と持ち帰りを促進。	■実施	■実施	—			・受付回り等で接客の中心となるパートスタッフについて、チケット販売システムの操作習熟や情報案内について、一層のスキルアップが期待される場所であり、体系的な教育メニューの構築が必要と考えられます。
		④個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	① 個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」に「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの ■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。 ② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接遇研修実施回数	■実施 ■実施 ■実施	■実施 ■実施 ■実施	— — —	個人情報の取り扱い事故0件。 必ず2名でチェック実施。 5月20日導入。個人情報は外部専用サーバーでの管理に変更。 にぎわいスタッフ向けの人権研修実施(4月)	【成果】 ・5月に導入したチケット販売システムにより、顧客情報やチケットの安全管理が実現しました。	【評価できる点】 ・特に大きな問題なく、施設の運営が行われています。
		④ 市内中小企業優先発注	□備品・消耗品購入 □修繕・備品の買い替え □印刷物	90%以上 90%以上 80%以上	90% 91% 95%	B B A		【課題】 ・事務処理ミスは発生していないながらも、毎日大量の個人情報を扱っており、常に細心の注意を払う必要があります。紙資料の更なる廃止など、事務の最適化を図っていく必要があります。	【改善が必要と考えられる点】 ・チケット販売システムの導入、それを活用したメーリングリストの運用開始等を考慮し、個人情報の適切な取扱をこれまで以上に慎重に運用していく必要があります。
		④ 市内中小企業優先発注	□備品・消耗品購入 □修繕・備品の買い替え □印刷物	90%以上 90%以上 80%以上	90% 91% 95%	B B A			
		4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を行います。	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	① 個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」に「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守。 ■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの ■入場券販売に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止。 ② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施。 □にぎわいスタッフ向け接遇研修実施回数	■実施 ■実施 ■実施	■実施 ■実施 ■実施	— — —	個人情報の取り扱い事故0件。 必ず2名でチェック実施。 5月20日導入。個人情報は外部専用サーバーでの管理に変更。 にぎわいスタッフ向けの人権研修実施(4月)	【成果】 ・5月に導入したチケット販売システムにより、顧客情報やチケットの安全管理が実現しました。

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理	①施設及び設備の維持保全及び管理 ・共用部:ビル管理組合との連携、大規模修繕への配慮 ・専有部:建築設備等、舞台設備、備品、消耗品、清掃	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保全管理及び点検の遺漏ない実施	実施	実施	各項目を遺漏なく実施	【成果】 ・保全管理、点検は計画通り実施しました。 【課題】 ・経年により調達不能な部品等も発生しており、故障に対応できないことが懸念されます。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	【評価できる点】 ・施設、設備の安定的な保守管理が行われています。 ・不具合発生時には設備業者、保守管理会社等と連絡調整を行い、市側とも相談しながら、迅速な対応が行われました。	
		■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施	実施	実施	毎日遺漏なく実施。			
		□設備の不具合による施設貸出停止件数	0件	0件	B			
		□来館者アンケートにおける施設快適性評価	年平均4以上	年平均4.45	A			公演アンケートで集計。
2 小破修繕の着実な実行	①小破修繕の取組	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施	実施	実施	19件、約320万円の修繕を実施。故障対応(高所作業台、自動ドア、舞台備品ほか)のほか、施設的美観向上(案内板、チラシラック、提灯、のぼりの更新)や来館者利便性の向上(トイレの温水洗浄化、wi-fi設置)などを実施。	【成果】 ・緊急性の高い修繕に加えて、施設のイメージアップや利用者サービスにつながる修繕も複数実施しました。 【課題】 ・経年劣化による故障は今後更に増えていくことが予想されています。対応が遅れた場合、施設の運営に大きく関わるものもあり、市とも連携した対応が必要です。	【評価できる点】 ・緊急性や運営上の重要性等考慮しながら、小破修繕への対応が行われました。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
3 事故予防及び緊急時の対応	①事故防止体制、緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理の実施、複合ビル内の連絡体制の確保	①事故防止対策、緊急時(防犯)対応 □施設管理者有責による人身事故件数	0件	0件	B	【成果】 ・施設有責事故に加え、お客様事由による怪我等も発生していません。 【課題】 ・高齢者のお客様が多い施設として、全ての職員が適切な介助ができるように研修等で取り組む必要があります。	【評価できる点】 ・特に大きな問題なく施設運営が行われました。引き続き研修等を通じ、スタッフのスキルアップに努めていくことを期待します。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
		□サービス介助士資格取得者在籍数	2人以上	1人	C			1人は資格失効。更新のための講習未受講。
		■職員及び委託業者による巡回やモニタリングにより、危険、要介護者、および各種異常を早期に発見し、適切に対処	実施	実施	—			年2回の防災訓練で、巡回ポイントを指導。
		■施設の利用状況に合わせ、楽屋管理口になぎわいスタッフが常駐し、開演鑑及び管理を実施	実施	実施	—			施設の利用に合わせてスタンバイ。
		②感染症対策 ■職員及び委託業者による巡回で異常を早期に	実施	実施	—			職員と清掃業者と連携して実施。
		■汚物処理は感染症を念頭におき、効果的に実	実施	実施	—			汚物処理を数回速やかに実施。
4 防災に対する取組	①危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施、その他防災に関する事項	■現行マニュアルの検証と改訂	実施	実施	—	【成果】 ・防災訓練実施後の職員からの意見を反映して、より実効性の高いマニュアルへの改訂と訓練立案を行いました。 【課題】 ・地下2階は地震の揺れを実感できない構造ですが、津波が到来する場合には直ちに上階への避難が必要となります。電波も届きにくいなど防災上の問題があり、ハード、設備面からの備えも必要です。	【評価できる点】 ・災害発生に備えた体制作りを行っています。引き続き、災害発生時に備えた、体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を行ってください。 【改善が必要と考えられる点】 ・現状の課題と考えられるポイントに備えた、対策の検討、危機管理防災マニュアルへの反映等を進めてください。	
		□異なる設定で全職員参加の避難訓練実施	年2回以上 うち1回はマンション住民参加	年2回 住民参加は未実施	B			第1回(9/20)「小ホール地震・津波編」「小ホール火災編」、第2回(2/22)「小ホール地震・津波編」で実施。
		■非常時には一時滞在施設・避難受入施設と同等の対応を実施	実施	実施	—			備蓄品の更新実施。
5 その他管理に関する事項		■専門業者に委託し、関係法令ならびに管理業務基準に沿った管理・保守点検を実施	実施	実施	ビル全体の管理者に一括管理委託。毎月ミーティング実施。	【成果】 ・管理センターとは常にコミュニケーションを取り、その専門性を運営を活かしています。 【課題】 ・特にありません。	【評価できる点】 ・ビル管理会社と連携した保守管理運営が行われています。 【改善が必要と考えられる点】 ・特になし	

平成28年度 横浜にぎわい座指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1	適切な収支構造及び収支バランス	(収支計算書) 適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	28年度は施設利用料金の減少や自主事業費の委託費増などが発生。次年度は改善策が必要。	【成果】 ・第2期(平成23～27年度)の課題であった事業収支マイナスに関しては改善されました。	【評価できる点】 ・好調な事業面の売り上げが功を奏し、課題であった事業収支に改善が見られました。	
2	指定管理料にのみ依存しない収入構造	①指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	①利用料金収入の確保 ■利用率 □収入目標	(II 2再掲) 20,500,000円	17,826,800円	C	【成果】 ・チケットシステム導入により、効率的で適切なチケット販売が実現しました。	【評価できる点】 ・課題を全て一朝一夕に解決することは困難な中、一つ一つ可能なところから取組に着手している姿勢は評価できます。
		②貸館における新たな料金設定 ■ゴミ処理有料化等新規料金設定の運用開始	実施	未実施	—	29年度実施予定。		
		③チケット受託販売 ■チケット受託販売手数料の改訂 □受託実績	実施	未実施	—	29年度実施予定。		
		④自主事業収入の増収 ■WEB 申込みなどチケット販売方法の変更	実施	実施	—	5月導入。インターネットを使ってのチケット販売により、購入しやすくなり、チケット販売数が増加。コンビニ受取り、ネット決済なども実施。		
		□入場料収入	131,000,000円	133,856,830円	B	にぎわい寄席、正月、二月興行の集客増など。		
		■団体誘致用広報チラシ作成 □団体販売実績(月平均)	実施	実施	—	1種類作成。		
		8	8 団体以上	10.5団体	A			
		⑤協賛金の獲得 □協賛(現物協賛を含む)件数	3 件以上	3件	B	チケットホルダーへの広告掲載、横浜音楽祭助成金2件。		
		⑥オリジナル商品開発及び販売 □商品売上	20 万円以上	32万円	A	手拭い、チケット入れなど。		
		⑦テレビ番組収録の誘致 □オリジナルグッズ新商品	(II 2再掲)					
		⑧経費削減 ■入札、見積もり合わせの徹底	実施	実施	—	財団経理規程を遵守し、適切に実施。		
		⑨コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーフ制スタートによる業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施	—	表方チーフ(定年後の再雇用)による対応114公演。		
		14	①経費削減等効果的運営の取組	⑧経費削減 ■入札、見積もり合わせの徹底	実施	実施		
15	■計画的なチラシ発送による郵送料の削減	実施	実施	—	チラシの配送を月2回に集中実施。			
16	⑨コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーフ制スタートによる業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施	—	表方チーフ(定年後の再雇用)による対応114公演。			

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						<p>・今年度から第3期の指定管理期間となり、事業収支の赤字改善を最重要課題として、定番公演の改訂や広報強化、チケット販売方法の変更などを実行し、これらについては成果が現れています。今後は顧客情報分析やターゲット別のPRなどにより、更に集客を伸ばしていきます。</p> <p>・施設運営(貸館)については、新サービス実施の準備等が遅れており、利用率、利用料金も前年度を下回りました。</p>	<p>・落語人気の高まりを背景に、公演事業の集客が全般的に好調となっています。特に、課題としていた、寄席公演を「にぎわい寄席」とリニューアルしたタイミングを捉え、効果的なPRを行い、集客にもつなげることができました。</p> <p>・一方で、貸館運営については、全室目標未達と、これまでの課題に対する具体的な成果が上がっていません。</p> <p>・このような状況を反映し、収支についても事業面では改善が見られたものの、貸館収入が目標を下回る結果となり、これを補う一層の取組が求められます。</p> <p>・講座・ワークショップや、各種アウトリーチ等の周辺プログラムに積極的に取り組み、大人から子どもまで、幅広い対象に対し寄席文化のすそ野を広げました。</p> <p>・今後は事業面での挑戦と、貸館運営の底上げに、バランス良く取り組んでいくことで、健全な財務状況を回復する中で、公演の集客や施設利用者、周辺プログラムの参加者等を含めた、より多くの市民に大衆芸能の魅力を伝えていくことにより、横浜にぎわい座の役割を担っていくことが求められます。</p> <p>・一つ一つの優れた取組については、それが一過性のものとならないよう、しっかりと実績の評価・検証と改善を行いながら、今後の発展的な継続に向け、進めていただきたいと考えます。</p>